

仕事の現場を見せる。

OPEN FACTORY in TAKAOKA



株式会社 老子製作所

これまで、職場の人間以外、足を踏み入れなかった工場。

時には危険と隣合わせで、

職人の真剣勝負の場だった工場。

今、そこに、一般の人々が訪れ、

ものづくりの現場を見ている。

人々はなぜ工場を見学するのか、

職人は何を見せようとしているのか。

高岡市で2017年に開催された

「銅器団地オープンファクトリー」の

計画から実施、そしてその後を追う。

未来のために、開くことから始めよう。

現場を見せる、伝える

オープンファクトリーには、二通りのタイプがある。工場のあるエリア内を来場者が自由に見学できるフリー型と、決まったコースをガイドと一緒に回るツアー型だ。

高岡市では、高岡伝統産業青年会が主催する「高岡クラフツリーズモ」がある。若手職人自らガイドとなつて、工場や工房などを回るツアー型で、2012年から定期的に開催している。

2017年秋、高岡で初めてフリー型のオープンファクトリーが開催された。そのエリアは、高岡市の南部に位置する高岡銅器団地。高岡銅器の工業団地である。

高岡銅器は、約400年の歴史を持つが、その間に技術が進化し、現在では製造工程である地金精錬、鋳造、加工、仕上げの各工程が分業化されている。

高岡銅器団地は、全国の産地に比べて集積度合いがかなり高く、すべての工程が団地内で完結する全国でも稀な工業団地である。

二年前、高岡銅器団地協同組合で、「未来を考える委員会」が発足した。理事長や組合員の強い思いから、主要メンバーには各企業の若手が選

ばれた。

委員会では、さまざまな意見が出た。その根底には、高岡銅器の未来に対する危機感があつた。自分たちの未来を明るくするために何が必要か。まず大きな目標を描き、その第一歩となる事業を模索した。

銅器団地の現状を話し合ううちに、自分たち自身も隣の製作所が何を、どんな技術で製造しているかわからない現実があつた。企業秘密もあるが、いろいろな業種が集まっているということは、いろいろな技術や資産を持っているということだ。

自分たちの技術を、個性を、公開することが第一歩なのではないか。

「高岡銅器団地には個性のあるものづくり企業があることを知ってもらおう。自分たちの取引先だけでなく、広く一般の人たちに、ものをつくる現場を見てもらおう」

委員会は、団地内の企業に呼びかけ、今まで工場見学すら受けたことのない企業も含めた21社で開催することになった。



「未来を考える委員会」会議風景



OPEN
FACTORY
SHOTS

株式会社 老子製作所
鑄込み風景



参加者に説明する
株式会社 平和合金
藤田和耕さん

高岡銅器団地とは

1977年、高岡市南部の戸出地区につくられた、32社からなる工業団地。銅合金鋳物製造業をはじめ、研磨や着色、プレス、地金精錬など多様な業種により、仏具や茶道具といった小物から梵鐘（ぼんしょう）、ブロンズ像、エクステリア用品などの大物に至るまで、幅広い品目を製造している。今回の「オープンファクトリー」は、設立40周年を記念して開催された。参加企業は、21社。



高岡銅器団地協同組合「未来を考える委員会」。左から、瀬尾良輔さん、棚田晋平さん、高田晃一さん、定塚康孝さん、中島健太郎さん、藤田和耕さん、老子祥平さん、盤若学さん。



鑄造から仕上げまで、歩いて回れる工場見学

どれだけの人が来るのか

開催日は、9月22日(金)、23日(土)の2日間。工場が稼働している平日と土曜日の開催とした。また、ガイド付きのツアーを両日とも設定。ガイドは、委員会メンバーが担当した。

「初めてなので、どれだけの人が来るのかわからない。見学者用のマップや看板制作でも、迷わないようにいろいろ工夫しました」と、オープンファクトリー実行委員会代表の定塚康孝さんは語る。

見学者には、受付でdd銅器団地マークのステッカーを渡し、胸に貼ってもらい、参加証とする。道路にはマップと同じ色ののぼり旗を立て、工場前には看板を立てる。見学者に、技術や製品をどのように説明するかは、それぞれの企業で考えてもらうなどを取り決めた。

パンフレットなどの宣伝物には、「鑄造から仕上げまで、歩いて回れる工場見学」のコピーを入れた。ようこそ、高岡銅器団地へ

両日とも晴天となり、高岡市内で開催されたクラフトイベントと同時間開催としたこともあって、多くの来場者があった。

ツアーは、午前10時スタート。ガイド担当のメンバーを先頭に、最初の見学先へ。そこで、見学者が目にしたのは、テーブルにきれいに並べられたおりんだった。

「うちでは、おりの鑄造から仕上げまでを一貫して手がけています。製作所の担当者が、型づくりから鑄造温度、旋盤、研磨まで丁寧に説明していた。

「慣れないなかで、いろいろ工夫をしていたきました」と、定塚さん。ガイドを担当した瀬尾良輔さんは、「説明が少なくて時間が持たないかもと心配しましたが、逆に押すくらいでした」と語る。

参加企業は、それぞれ精一杯に来場者をおもてなしたのだ。

迎える工場、訪れる人々

今回、初めて工場を公開した精密旋盤加工業の棚田晋平さんは、「若い人にも、ものづくりの楽しさを知ってほしい」と思い参加しましたと語る。将来を考え、人材の確保もオープンファクトリーの大きな理由だ。

土曜日は、家族連れの見学者も多かった。小学生の男の子二人と巡った家族は、「ものづくり・デザイン科」の授業で鑄物を学び、実際の工場ではどんなふうにつくっている

のか見たくて来ました」と話してくれた。

また、ある工場には、他の工場の職人たちが見学に訪れていた。「こんな時でないと思われたいから」と興味深そうに見学していた。

団地内でも、他社の工場に入ることはあまりない。「オープンファクトリーは、企業同士の交流にもメリットがあったと思います」と、定塚さんは語る。

少しでも大きな変化

二日間のオープンファクトリーは無事終わった。「印象的なのは、工場の職人たちが楽しそうだったこと。皆さん、自分の技術を話したかったんでしょ」と瀬尾さんは語る。

銅器団地協同組合事務局の中山晃さんは、「自分たちの技術がすごいことを再認識したと思う。企業の経営者や職人たちの意識が変わったんじゃないでしょうか」と話す。

自分の仕事を、一般の人々に説明したことで、確実に変化が訪れているようだ。

委員会では、オープンファクトリー終了後、ただちに会議を開き、課題を話し合っている。参加企業に、アンケートも実施した。その結果、

※ものづくり・デザイン科/2006年4月から、小学5・6年生、中学1年生が必修教科として年間35時間高岡の伝統工芸について学んでいる。地元の工芸技術者が講師となり、実技指導や歴史の講義などを行い、児童・生徒一人ひとりが自分の作品を制作する。



高岡銅器団地オープンファクトリーの風景。(上)瀬尾製作所株式会社(中)株式会社 メタルキャスト(下)水巻銅器製作所



開いた工場の その先にあるものは

ほとんどの企業が、「やってよかつた」と回答した。

「今後もつと人員が増えていけばいいですね。また、発展の余地はあると思います」と、瀬尾さん。

定塚さんは、「見学だけでなく、体験もできるようになれば」と、語る。

さらに、食べる、買うなどのコンテンツも必要だ。「そのためには、銅器団地だけでなく、いろいろな企業などと協力して、大きな輪を広げたい」と言う。

高岡の未来が見えてくる

オープンファクトリーを開催する産地には目的がある。それは、社会全体に、ものづくりへの理解を促し、関心を高めること。歴史や食べ

物などの資産とともに地域のブランドディングを図り、未来へつながる動きをつくりだすこと。

定塚さんも「続けることで、いろいろな出会いが生まれ、新しいビジネスや商品が生まれてくるはず」と期待を寄せる。

「ものづくりのまち高岡」は、「もの」だけでなく、「ものをつくる現場」を見せ始めた。ものが誕生する瞬間や、高い技術で美しくする場面を。職人たちは、自らの価値を再認識し、職人や工場を真剣な目で見つめていた子どもたちは、やがて後継者となるかもしれない。地域や業種を超えた大きな流れとなることも夢ではない。「現場」から見える高岡の未来がここにあった。

OPEN FACTORY INFORMATION

高岡の工業、産業団地で工場見学

株式会社 能作

(高岡オフィスパーク内)



錫(スズ)の商品で知られる能作の鋳造の作業工程を、案内者の解説付きで見学でき、鋳物づくりの現場のにおいや温度など、空気感を肌で感じることができる。

[申込み] 事前予約制

[予約方法] ホームページ及び電話、FAX、メール。

TEL.0766-63-0001 FAX.0766-63-5510

Mail kanko@nousaku.co.jp

[料] 無料 [休] 日曜・祝日・年末年始、第2・4土曜(月により変更有)

[所要時間] 約60分 [数] 1名~60名

ものづくり体験もできる。

詳しくは、ホームページを参照。www.nousaku.co.jp

[所] 高岡市オフィスパーク8-1

株式会社 フジタ

(福岡金属工業団地内)



車のアルミホイールなどの自動車部品を主に鋳造金型・鍛造金型などを制作している。町工場の創造性を高める「ファクトリー アート ミュージアム トヤマ」をオープンした。

○工場見学

[申込み] 事前予約制(15名まで)

○「ファクトリー アート ミュージアム トヤマ」

[申込み] 事前予約制 [入館料] 高校生以上 1,000円

[予約方法] ホームページの見学お申し込みフォーム、または、ミュージアム直通電話にて申込み。

直通電話 TEL.0766-64-0501

※開館日、時間について、問い合わせの上予約。

ホームページ www.fujita-k.co.jp

[所] 高岡市福岡町荒屋敷525-9(ミュージアム)

株式会社 二上

(長慶寺団地内)



鋳肌を活かした真鍮のプロダクト「FUTAGAMI」などのブランドのショールームが工場内にある。また、イベント時に工場見学を行っている。

○ショールーム見学

[申込み] 事前予約制

[予約方法] ホームページから、1週間前までに予約。

※電話での予約は受け付けていない。

[見学可能時間]

日曜、祝日、第2・4土曜を除く、10:00~18:00

○工場見学は、イベント時のみ。

ホームページやFacebookなどで告知している。

[所] 高岡市長慶寺1000